国際文化紹介ブース12月：カナダ編

せんとぴゅあⅡで、東川町国際交流員（CIR）が母国に関連した書籍を紹介‼

担当CIRからヒトコト

カナダの代表作の「赤毛のアン」や景色と歴史を味わえる図鑑を用意いたします。どうぞお越しください！　マシュー・サフランヤク

※一部館外貸し出しできない書籍もございます。

ほんの森 司書のオススメ

せんとぴゅあⅡ ほんの森

【貸し出し】
図書、紙芝居、雑誌は一人合計10点まで（15日間）
DVDは一人2本まで（8日間）

★本、DVDの蔵書リクエストもお受けしています

ペンギンにさよならをいう方法（一般書）

ヘイゼル・プライア／著　坪香織／訳　東京創元社／刊

ヴェロニカ・マクリーディは八十五歳の気むずかしいおばあちゃん。スコットランドの大きな屋敷にひとりで暮らし、お茶をしたり動物番組を見たりしながら、自分の遺産をどこへやろうかと考えている。ある日、南極でおこなわれている資金不足のアデリーペンギン研究を知った彼女は、遺産をゆずる相手としてペンギンがふさわしいかを見極めるべく、はるか南の大陸へと一世一代の旅に出た。

世界を知ろう！ 128

カナダのクリスマス

東川町国際交流員（CIR）
マシュー・サフランヤク

12月といえば、カナダで最も大きく、そして最も重要な行事といえばやはりクリスマスです。日本に来てから４年が経ちますが、12月25日が祝日扱いではないことにはいまだに寂しさを覚えます。カナダにいる家族のみんなは、親戚大集合であるクリスマスの日に私が普通に出勤していることを聞くと驚愕します。でも実家帰りするのに何十万円と丸一日かかる移動時間を要することを認知され、帰らなくていいことになっています。

カナダは色んな人が集まる国なのでカナダのクリスマスを一言で語ることは難しいのですが、クリスマスツリーを飾ったり、プレゼントをする文化はもちろんカナダにもあります。では何が独特なのかと言えば、それぞれの地域と文化を現代まで引き継ぐことなんじゃないでしょうか。私の地元では東ヨーロッパからの移民の人が多かったため、クリスマスの伝統もそのままでした。私はクリスマスの日は一般的なクリスマスを過ごしましたが、クリスマスイブは祖父母の家に訪れ、より伝統的なスタイルのクリスマスを過ごしました。

伝統的と言ってもそこまで古い感じはしませんでした。曾祖父がカナダに移民してきてからカナダの生活はおよそ100年もあってその過ごし方も現代に合わせたものになったのでしょう。残されたのは伝統的なクリスマス晩餐だったけど、はっきり言って当時の自分には美味しくなかった。本来のクリスマスディナーは大好きな肉料理のハムとターキー（七面鳥）の贅沢な食事のはずなのに、伝統的なクリスマス晩餐は肉が禁止され、残されたのは当時嫌いだったボルシチやロールキャベツなどでした。幼いころの私はそれらをあまり好みませんでしたが、好き嫌いがなくなった今やクリスマスの時期になるとおばあちゃんの手料理が恋しくなります。地元から離れていくと誰でもそうなるのかもしれませんね。

▲カナダのクリスマスのお菓子「バタータルト」